

4月	単元名	1 整数と小数 (4時間)	
	目標	整数および小数について、十進位取り記数法によって表されていることに着目し、十進数としての特徴を統合的に理解し、計算などに有効に用いることができるようにする。	
	目 標	時	・主な学習活動 ※指導上の工夫 ◆算数的活動
	○整数と小数は十進位取り記数法で表され、から9までの数字と小数点を使うと、どんな大きさの整数や小数でも表せることを理解する。	3	・マラソンコースの距離の42.195kmの数について、それぞれの位の数字の表す大きさを調べる。 ※数字カードを使い0から9までの数字と小数点を使って、いろいろな大きさの数を表せるようにする。
	○整数や小数を10倍、100倍、…すると、はそれぞれ1桁、2桁、上がり、小数点は右に1桁、2桁、…移動することを理解する。		・数の構成を式に表す。 ・「算数のおはなし」を読んで、整数や小数と分数の仕組みの違いについて考える。
	○整数や小数を1/10、1/100、…にすると、位はそれぞれ1桁、2桁、…下がり、小数点は左へ1桁、2桁、…移ることを理解する。		・3.75を10倍、100倍したときの数を求める。 ・3.75を10倍、100倍したときの位の変わり方を調べる。 ・小数を10倍、100倍したときの位の上がり方をまとめる。 ・3.75を10倍、100倍したときの小数点の位置の移り方を調べる。
	○学習内容の定着を確認し、理解を確実にする。	1	◆小数を10倍、100倍したときの小数点の位置の移り方を説明し、まとめる活動 ・25.7を1/10、1/100にしたときの数を求める。 ・25.7を1/10、1/100にしたときの位の変わり方を調べる。 ・小数を1/10、1/100にしたときの位の下がり方をまとめる。 ・小数を1/10、1/100にしたときの小数点の位置の移り方を調べ、小数点の位置の移り方をまとめる。
	(関) 十進位取り記数法によさに気付き、整数および小数について十進数としての特徴を統合的にとらえようとする。		・「しあげのもんたい」に取り組む。
	(考) 整数および小数の十進数としての特徴について、十進位取り記数法の仕組みを基に統合的にまとめることができている。		
	(技) 整数および小数について、10倍、100倍、1/10、1/100などの大きさの数を位や小数点の位置を移してつくることができている。		
	(知) 整数や小数を10倍、100倍(1/10、1/100)すると、位や小数点は右(左)へそれぞれ1桁、2桁移動することを理解している。		
4月	単元名	2 直方体や立方体の体積 (11時間)	
	目標	立体の体積について単位と測定の意味を理解し、体積を計算で求めることができるようにするとともに、体積についての量感を豊かにする。	
	目 標	時	・主な学習活動 ※指導上の工夫 ◆算数的活動
	○「体積」の意味や体積を表す単位「立方センチメートル(Cm ³)」について理解する。	6	・液体の体積や面積の学習を基に、直方体と立方体の大きさの比べ方を考える。
	○直方体、立方体の体積を求める公式を理解し、公式を適用して体積を求めることができる。		・1辺が1Cmの立方体の積み木で直方体や立方体の大きさを調べ、積み木の数で直方体と立方体の大きさを表す。
	○多様な方法で直方体を組み合わせた図形の体積の求め方を考え、求めることができる。		・用語「体積」、体積の単位「立方センチメートル」を知る。 ・縦4Cm、横6Cm、高さ5Cmの直方体と1辺5Cmの立方体の体積を計算で求める方法を考える。 ※実際に1Cm ³ の立方体を使い、立方体が何こ分か調べさせる。 ・直方体、立方体の体積を求める公式をまとめる。 ・直方体や立方体の体積を、公式を使って求める。
			・直方体を組み合わせた図形の体積の求め方を工夫しながら多様に考える。 ・各自の考えた求め方について発表し、検討する。 ◆体積の求め方を説明する活動

○直方体の高さや体積の関係や、用語「比例」の意味をについて理解する。		<ul style="list-style-type: none"> 底面積を固定して、直方体の高さを2倍、3倍、…にすると、体積はどのように変わるかを調べる。 用語「比例」の意味を知る。
○体積を表す単位「立方メートル(m ³)」や、1m ³ =1000000Cm ³ の関係について理解する。	3	<ul style="list-style-type: none"> 体積の単位「立方メートル」を知り、縦3m、横4m、高さ2mの直方体の体積を求める。 1m³は何Cm³か調べ、1m³=1000000Cm³の関係をまとめる。 1m³の立方体を作り、1m³の体積を実感する。 縦、横、深さが10Cmの1Lのますに入る水の体積を考える。 用語「容積」の意味を知る。 1L=1000Cm³、1mL=1Cm³の関係を調べる。
○「容積」の意味やその求め方について理解する。		<ul style="list-style-type: none"> ランドセルのおよその容積の求め方を考える。 ランドセルの中を直方体とみて、およその容積を求める。 「算数のおはなし」を読み、複雑な形のものでも水の中に入れることによって、その体積がはかれることを理解する。
○1L=1000Cm ³ 、1mL=1Cm ³ の関係について理解する。		
○具体物の概形を直方体としてとらえ、およその容積を求めることができる。		
○学習内容を適用して解決する。	2	<ul style="list-style-type: none"> 「力をつけるもんだい」に取り組む。 「しあげのもんだい」に取り組む。
○学習内容の定着を確認し、理解を確実にする。		
<p>(関) 合同という観点で、図形の性質を見直したり、対角線に着目してできる図形をとらえたりして、学習に生かそうとする。</p> <p>(考) 合同という観点から、図形の形や大きさを決める要素について考え、図形の性質としてまとめたり統合的にとらえたりすることができている。</p> <p>(技) 必要な、対応する辺の長さや角の大きさを用いて合同な図形を弁別したりかいたりすることができている。</p> <p>(知) 図形の合同の意味や合同な図形の性質について理解している。</p>		

【授業における評価計画例】 第1次 第5時

- 授業の概略 ※台の形の体積の求め方を考える。既習である複合図形の面積の求め方を想起する。
 ※多様な考え方で発表、検討する。
 ※考え方(方法)を分類する。①分割する。②全体から部分を引く。③移動させ直方体にする。

○評価の観点および評価基準

(数学的な考え方) 複合図形の体積を、分解したり補ったりして、図や式を用いて考え、説明することができる。

●各学校の評価の基準になる児童の姿の例

A 十分満足できると判断されるもの

友達の式から、その思考過程を読み取り、考え方を分類することができる。

B おおむね満足できると判断されるもの

体積の求め方を、既習の面積の求め方から想起し、求めることができる。

●評価の方法と視点

※複合図形へのかき込みを観察する。点線などのかき込みから、複合図形の体積を工夫して求めているか。

※発表場面から、友達の考えの読み取りを観察する。友達の立てた式から、その方法を推測できているか。

単元名	3 比例	
目標	伴って変わる2つの数量の関係を用いて考察することを通して、比例について理解する。	
目標	時	・主な学習内容 ※指導上の工夫 ◆算数的活動
○直方体の高さや体積の関係や、用語「比例」の意味をについて理解する。	1	<ul style="list-style-type: none"> 底面積を固定して、直方体の高さを2倍、3倍、…にすると、体積はどのように変わるかを調べる。 用語「比例」の意味を知る。
○リボンを買う長さや代金などの既習場面を比例という観点で考察することを通して、比例について理解を深める。	2	<ul style="list-style-type: none"> リボンを買う長さを2倍、3倍、…にすると、代金はどのように変わるかを調べ、代金は長さに比例することをまとめる。 かおりの吹き出しや140～141ページを参照し、比例の関係は数直線でも表せることを確認する。 適用問題に取り組み、表から比例関係を判断する。

	<p>(関)伴って変わる2つの数量の変わり方に関心を持ち、表を用いてその関係を調べようとする。 (考)伴って変わる2つの数量の関係を調べる際に、比例という観点をもって考察することができる。 (技)表から比例関係を判断することができる。 (理)伴って変わる2つの数量について、一方が2倍、3倍、…になると、もう一方も2倍、3倍、…になるとき、そのような関係を比例ということを理解する。</p>	
5	単元名	4 小数のかけ算 (11時間)
月	目標 乗数が小数の場合の乗法の意味や計算の仕方について理解し、それを用いることができるようにするとともに、小数の場合でも整数の場合と同じ関係や法則が成り立つことを理解する。	
6	目 標	時 ・主な学習活動 ※指導上の工夫 ◆算数的活動
月	○小数をかけることの意味や整数×小数の計算の仕方を理解し、その計算ができる。 ○小数×小数の計算の仕方について理解する。 ○小数×小数の筆算(末尾の0を処理したり、0を補ったりする場合を含む)の仕方を理解し、その計算ができる。 ○純小数をかけると、積は被乗数より小さくなることを理解する。 ○長方形や直方体の辺の長さが小数の場合も、面積や体積の公式を適用できることを理解する。 ○整数について成り立つ交換、結合、分配法則は、小数の場合でも成り立つことを理解する。	7 <ul style="list-style-type: none"> ・自分の考えで立式する。 ◆その式になる理由を、数直線や言葉の式などを用いて考え、説明する活動 ・80×2.3の計算の仕方を考える。 ・計算の仕方をまとめる。 ・立式を考える。 ・2.14×3.8の計算の仕方を考える。 ・小数×小数の筆算の仕方をまとめる。 ・練習問題2~4に取り組む。 ・4.92×7.5、0.18×3.4の筆算の仕方を考える。 ・計算練習をする。 ・80×1.8と80×0.8の計算をして、積と被乗数の大きさを比べる。 <ul style="list-style-type: none"> ・純小数をかけると、積が被乗数より小さくなることをまとめる。 ・縦2.3Cm、横3.6Cmの長方形の面積の求め方を考える。 ・長方形の中に、1辺が1mmの正方形が何個あるかを調べてから2.3×3.6の計算で求める。 ・縦0.8m 横1.2m 高さ0.7mの直方体の体積の求め方を考える。 ・$\blacksquare \times \bullet = \bullet \times \blacksquare$、$(\blacksquare \times \bullet) \times \blacktriangle = \blacksquare \times (\bullet \times \blacktriangle)$、$(\blacksquare + \bullet) \times \blacktriangle = \blacksquare \times \blacktriangle + \bullet \times \blacktriangle$、$(\blacksquare - \bullet) \times \blacktriangle = \blacksquare \times \blacktriangle - \bullet \times \blacktriangle$ ※いろいろな小数をあてはめ、式が成り立つか調べさせる。
	○純小数倍で表す場合も含めて、小数倍の意味の理解を確実にする。 ○小数倍の場合も、基準量×倍=比較量で比較量が求められることをおさえ、その式の意味について倍の意味や数直線を通して理解する。	2 <ul style="list-style-type: none"> ・12m、4mは、5mの何倍かを考える。 ・基準量、比較量は何かをとらえ立式する。 ・純小数倍について知る。 ・小数倍のときも、比較量÷基準量で求められることをまとめる。 ・5mの3倍、3.5倍、0.6倍の長さの求め方を考える。 ・小数倍の場合でも比較量を求めるには乗法を使うことをまとめる。 ・乗法の意味を、「被乗数を1とみたとき、乗数にあたる大きさを求めること」ととらえ、説明する。
	○学習内容を適用して解決する。 ○学習内容の定着を確認し、確実に理解する。	2 <ul style="list-style-type: none"> ・「力をつけるもんだい」に取り組む。 ・「しあげのもんだい」に取り組む。
	(関) 乗数が小数の場合について、計算の意味を整数の場合を基により広く一般化して用いられるように考えたり、計算の仕方を十進位取り記数法の仕組みを基に考えたりしようとする。 (考) 乗数が小数である場合の乗法の意味や計算の仕方について、数直線や乗法の性質などを用いて考え、説明しまとめることができる。 (技) 乗数が小数の場合の乗法の計算をすることができる。 (知) 乗数が小数の場合の乗法の計算の意味や計算の仕方について理解する。	
6	単元名	5 小数のわり算 (13時間)
月	目標 除数が小数の場合の除法の意味や計算の仕方について理解する。	
	目 標	時 ・主な学習活動 ※指導上の工夫 ◆算数的活動

○小数でわることの意味や整数÷小数の計算の仕方を理解し、その計算ができる。	8	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の考えで立式する。 ◆その式になる理由を、数直線や言葉の式などを用いて考え、説明する活動。 ・$300 \div 2.5$ の計算の仕方を考える。 ・計算の仕方をまとめる。
○小数÷小数の計算の仕方について理解する。		<ul style="list-style-type: none"> ・立式を考える。 ・$7.56 \div 6.3$ の計算の仕方を考える。 ・小数÷小数の筆算の仕方をまとめる。
<p>○小数÷小数の筆算（商が純小数や、被除数に0を補う場合）の仕方を理解し、その計算ができる。</p> <p>○純小数でわると、商は被除数より大きくなることを理解する。</p> <p>○小数の除法での余りの意味を理解し、余りを求めることができる。</p> <p>○小数の除法で商を概数で求めるときの処理の仕方を理解する。</p> <p>○数直線を用いた除法の演算決定について理解を深める。</p>		<ul style="list-style-type: none"> ・練習問題2～3に取り組む。 ・$2.34 \div 3.9$、$1.8 \div 2.4$、$8 \div 2.5$ の筆算の仕方を考える。 ・計算練習をする。 ・$240 \div 1.2$ と $240 \div 0.8$ の計算をして、商と被除数の大きさを比べる。 ・純小数でわると、商が被除数より大きくなることをまとめる。 ・2.5mのリボンをも、1人に0.7mずつ配ると何人に配れて、リボンはどれだけあまるかを考える。 ・小数の除法の、余りの小数点をうづ位置についてまとめる。 ※たしかめ算を使い、あまりの大きさについて確認させる。 ・1.4Lのすなの重さが2.6kgのときの、1Lのすなの重さを、上から2桁の概数で求める。 ・4.5mの重さが0.9kgのホースについて、ホース1mの重さ、およびホース1kgの長さを求める式を、数直線を活用しながら考える。
<p>○比較量、基準量が小数の場合も、倍を求めるときは除法を用いればよいことを理解する。</p> <p>○倍を表す数が小数の場合も、基準量を求めるときは□を用いて乗法の式に表し、除法を用いて□を求めればよいことを理解する。</p> <p>○差による比較の他に、倍を使っても比較できることを理解する。</p>	3	<ul style="list-style-type: none"> ・3.6km、1.8kmは2.4kmの何倍かを求める方法を考える。 ・比較量、基準量が小数の場合でも倍を求めるには除法を使うことをまとめる。 ・630gが基準量の1.8倍にあたる時の、基準量の求め方を考える。 ・基準量を求めるには、□を使って乗法の式に表して考えればよいことをまとめる。 ・$120 \div 80$、$90 \div 50$ の計算をして、値段の上がり方を、倍を使って比べる。
<p>○学習内容を適用して解決する。</p> <p>○学習内容の定着を確認し、理解を確認にする。</p>	2	<ul style="list-style-type: none"> ・「力をつけるもんだい」に取り組む。 ・「しあげのもんだい」に取り組む。
<p>(関) 除数が小数の場合について、計算の意味を整数の場合を基に、より広く一般化して用いられるように考えたり、計算の仕方を十進位取り記数法の仕組みを基に考えたりしようとしている。</p> <p>(考) 除数が小数である場合の除法の意味や計算の仕方について、数直線や除法の性質などを用いて考え、説明しまとめることができている。</p> <p>(技) 除数が小数の場合の除法の計算をすることができている。</p> <p>(知) 除数が小数の場合の除法の計算の意味や計算の仕方について理解している。</p>		

【授業における評価計画例】 第1次 第3時

- 授業の概略 ※数直線を活用して問題場面を把握する。
 ※立式する。 ※計算の仕方を考える。 ※筆算の仕方を考える。
- 評価の観点および評価基準

(数学的な考え) 小数÷小数の計算の仕方を除法の性質を用い、整数の計算に帰着して考え、説明することができる。

●各学校の評価の基準になる児童の姿の例

A 十分満足できると判断されるもの

小数でわる意味を理解し、立式や筆算の仕方を根拠をもとにして説明することができる。

B おおむね満足できると判断されるもの

小数でわる計算の仕方を、除法の性質を用いて考えることができる。

●評価の方法と視点

※立式する際に、根拠となる考えを観察する。言葉や図、数直線等を用い、根拠をもとに式が立てられているか。

※計算の仕方を、除法の性質を用いて考えているか観察する。

「同じ数をかけても答えは同じ」のきまりを使って、計算や筆算の仕方を考えているか。

7月	単元名	6 合同な図形 (8時間)	
	目標	図形の合同の意味や合同な図形の性質などについて理解し、合同な図形をかくことを通して、平面図形についての理解を深める。	
	目 標	時	・主な学習活動 ※指導上の工夫 ◆算数的活動
	○「合同」の意味について理解する。		・与えられた三角形、四角形と形も大きさも同じ図形を見付ける。 ・用語「合同」の意味を知る。
	○頂点、辺、角について「対応する」の意味を知り、合同な図形の性質について理解する。		※図形を裏返して重ね合わせてもいいことを伝える。
	○平行四辺形やひし形を対角線で分割してできた三角形は合同であることを理解する。		・合同な図形を弁別する。 ・合同な図形について、重なり合う頂点、辺、角を調べる。 ・用語「対応する」の意味を知る。 ・合同な図形の性質をまとめ、それを用いて合同かどうかを判別する。
	○合同な三角形をかくのに、すべての構成要素を調べる必要がないことを理解し、合同な三角形をかくことができる。		・台形や平行四辺形、ひし形を1本の対角線で分割すると、どのような三角形ができるか考える。 ・分割してできた三角形について、合同であるかどうか調べる。
	○三角形との形と大きさが決まる要素の違いをおさえ、合同な平行四辺形のかき方を理解する。		・三角形の構成要素に着目して、合同な三角形のかき方を考える。 ・頂点Dの位置の決め方について考える。
	○学習内容を適用して解決する。 ○学習内容の定着を確認し、理解を確実にする。		・二辺夾角、二角夾辺、三辺のかき方で合同な三角形をかく。 ・すべての構成要素を使わなくても合同な三角形がかけられることをおさえる。 ・合同な三角形のかき方を基に、合同な平行四辺形のかき方を考える。 ◆合同な図形をかく活動 ・三角形の場合と異なり、4つの辺の長さだけでは形が決まらず、かけないことを知る。
	(関) 合同という観点で、図形の性質を見直したり、対角線に着目してできる図形をとらえたりして、学習に生かそうとする。		・「力をつけるもんだい」に取り組む。 ・「しあげのもんだい」に取り組む。
	(考) 合同という観点から、図形の形や大きさを決める要素について考え、図形の性質としてまとめたり統合的にとらえたりすることができる。		
	(技) 必要な、対応する辺の長さや角の大きさを用いて、合同な図形を弁別したりかいたりすることができる。		
	(知) 図形の合同の意味や合同な図形の性質について理解している。		

【授業における評価計画例】 第1次 第4時

○授業の概略 ※合同な三角形のかき方を考える。 ※作図をもとに、頂点Dの位置の決め方を考える。
 ※作図に必要な構成要素について話し合う。

○評価の観点および評価基準

〈数学的な考え〉合同な三角形を作図する方法を考えることができる。

●各学校の評価の基準になる児童の姿の例

A 十分満足できると判断されるもの

選択した構成要素の数に着目して、順序立てて説明をすることができる。

B おおむね満足できると判断されるもの

辺の長さや角の大きさを選択し、作図することができる。

●評価の方法と視点

※頂点Dを決める際の構成要素の選択を観察する。作図をもとに、根拠をもって構成要素の選択ができているか。

※必要な構成要素の数についての話し合いを観察する。

少ない数で、辺や角を選択し、また論理的に説明することができるか。

9月	単元名	7 偶数と奇数、倍数と約数 (10時間)	
	目標	偶数、奇数および倍数、約数などについて知り、整数の性質についての理解を深めるとともに、整数の見方や数についての感覚を豊かにする。	
	目 標	時	・主な学習活動 ※指導上の工夫 ◆算数的活動
	○偶数、奇数の意味や性質、整数は偶数と奇数に類別できることを理解する。	2	<ul style="list-style-type: none"> ・p.73をみて、クラスをどのように2つに分けているか調べる。 ・用語「偶数」「奇数」の意味を知る。 ・偶数と奇数を、それぞれ2でわったときの余りについて調べる。 ※偶数、奇数はどのように並んでいるか数直線を使い調べさせる。 ・すべての整数は、偶数と奇数に分けられることをまとめる。
	○「倍数」「公倍数」「最小公倍数」の意味について理解する。	4	<ul style="list-style-type: none"> ・カスタネットとトライアングルが同時に鳴るのは何回目のときか考える。 ・用語「倍数」「公倍数」「最小公倍数」を知る。 ・倍数、公倍数の意味を確かめる。 ・偶数は、2の倍数であるという視点で見直す。 ・数直線上でいろいろな数の公倍数を見付ける。 ・4と6の公倍数の求め方を考える。 ◆公倍数は最小公倍数の倍数であることに気付き、公倍数の求め方に活用する活動。
9月	○2つの数の公倍数を求めることができ、2つの数の公倍数は、最小公倍数の倍数になっていることを理解する。		
	○3つの数の公倍数の求め方を理解する。		<ul style="list-style-type: none"> ・2と3と4の公倍数の求め方を考える。
	○「約数」や「素数」の意味について理解する。	3	<ul style="list-style-type: none"> ・12本の白い花を同じ数ずつ分けて花束を作るとき、余りがでない分け方を考える。 ・用語「約数」を知る。 ・約数と倍数の関係をとらえる。 ・約数の性質(ある数を約数で割った商もまたある数の約数になる)を調べる。 ・用語「素数」を知る。 ・12本の白い花と18本の赤い花を同じ数ずつ分けて、それぞれを組み合わせるときの、余りの出ない分け方を考える。 ・用語「公約数」「最大公約数」を知る。 ・24と36の公約数の求め方を考える。 ・公約数は最大公約数の約数になっていることに気付き、公約数の求め方に活用する。 ・3つの数の最大公約数を求める。
	○「公約数」「最大公約数」の意味について理解する。		
	○2つの数の公約数を求めることができ、2つの数の公約数は、最大公約数の約数になっていることを理解する。		
	○学習内容の定着を確認し、理解を確実にする。	1	<ul style="list-style-type: none"> ・「しあげのもんたい」に取り組む。

	<p>(関) 整数は、観点を決めると偶数と奇数の2つの集合に類別できることよさに気付き、ある数の倍数、約数の集まりを集合としてとらえようとしたり、生活に用いようとしたりしている。</p> <p>(考) 偶数、奇数、ある数の倍数や約数の集まりをそれぞれ1つの集合、また、公倍数、公約数の集まりをそれぞれの数の倍数や約数の集合の共通の要素からなる集合としてとらえることができている。</p> <p>(技) 整数を偶数と奇数に類別することができている。 倍数、公倍数、最小公倍数、約数、公約数、最大公約数を求めることができている。</p> <p>(知) 偶数、奇数の意味や性質、すべての整数は偶数と奇数に類別できることを理解している。 倍数、公倍数、最小公倍数、約数、公約数、最大公約数の意味とその求め方および素数について理解している。</p>	
9	単元名	8 分数と小数、整数の関係 (6時間)
月	目標 分数の見方や表し方および分数と小数、整数の関係について理解し、分数についての理解を深める。	
10	目 標	時 ・主な学習活動 ※指導上の工夫 ◆算数的活動
月	<p>○整数の除法の商は分数を用いて表せることを理解する。</p> <p>○分数倍の意味について理解する。</p> <p>○整数の除法の商を小数と分数で表すことを通して、それらは等しいことを理解する。</p> <p>○分数を小数になおす仕方を理解する。</p> <p>○小数を分数になおす仕方を理解する。</p> <p>○整数を分数になおす仕方を理解する。</p> <p>○分数と小数を同一数直線上に表して、大きさを比べることができる。</p> <p>○学習内容の理解を確認する。</p>	<p>2</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2Lのジュースを3等分すると1つ分は何Lになるか考える。 ・$2 \div 3$の商を小数で表す。 ・整数の除法の商は分数で表すことができていることをまとめる。 ・「算数のおはなし」を読み、分数について理解を深める。 <p>※テープ図で、4m、2mは、3mの何倍にあたるか考えさせる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・基準量、比較量がどれかをとらえて立式し、答えを求める。 ・倍を表す数に分数を使うことがあることをまとめる。 <p>3</p> <ul style="list-style-type: none"> ・$3 \div 5$の商を小数と分数で表し、0.6と$3/5$が等しいことを数直線で確かめる。 ・$3/4$、$2/9$を小数になおす仕方を考える。 ・分数を小数になおす仕方をまとめる。 <p>※分数には、小数で正確に表せないものがあることをおさえる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・0.3、0.09、0.57を分数になおす仕方を考える。 ・小数を分数になおす仕方をまとめる。 ・4、12を分数になおす仕方を考える。 ・整数を分数になおす仕方をまとめる。 <p>◆$4/5$と0.7の大小を、分数を小数になおしたり、数直線上に表したりして比べ、説明する活動。</p> <p>1</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「しあげのもんだい」に取り組む。
	<p>(関)整数の除法の商を分数で表せることよさに気付き、分数と小数、整数を相互の形で表し、学習に用いようとする。</p> <p>(考)分数と整数、小数は表し方は違っても数としては同じものを表していることをとらえることができている。</p> <p>(技)$a \div b$をa/b、a/bを$a \div b$と見たり、分数を小数で表したり、小数、整数を分数の形になおしたりすることができている。</p> <p>(知) 整数の除法の結果は分数を用いると1つの数で表せることや、分数と整数、小数の関係を理解している。</p>	
10	単元名	9 分数のたし算とひき算 (11時間)
月	目標 分数の性質や異分母の分数の加法および減法の意味について理解し、それらを用いることができるようにするとともに数についての感覚を豊かにする。	
	目 標	時 ・主な学習活動 ※指導上の工夫 ◆算数的活動

	○分数の分母と分子に同じ数をかけても、同じ数でわっても、分数の大きさは変わらないことを理解する。 ○「約分」の意味について理解する。 ○「通分」の意味について理解する。	3	<ul style="list-style-type: none"> ・1/4 と大きさの等しい分数のつくり方を考える。 ※数直線や面積図で、$1/4=4/16$であることを確かめさせる。 ・分数の性質として大きさの等しい分数のつくり方をまとめる。 ・9/36 と大きさの等しい分数の見付け方を考える。 ・用語「約分」を知り、方法をまとめる。 ・3/4 と 4/5 の分数の大きさの比べ方を考える。 ・用語「通分」を知り、方法をまとめる。 ・「算数のおはなし」を読み、単位分数について知る。
	○異分母の分数の加減計算の意味を理解し、その計算ができる。 ○約分ができる場合や3口の加減計算の仕方を理解し、その計算ができる。 ○帯分数の加法計算の仕方を理解し、その計算ができる。 ○帯分数の減法計算の仕方を理解し、その計算ができる。 ○分数と小数の加減混合計算ができる。	6	<ul style="list-style-type: none"> ・$1/5+1/2$ の計算の仕方を考える。 ・通分してから計算することをおさえる。 ・$2/3$ と $3/4$ の大きさを比べる。 ・$3/4-2/3$ の計算の仕方を考える。 ・加法も減法も通分してから計算すればよいことをまとめる。 ・計算練習をする。 ・$1/6+3/8$ の計算の仕方を考える。 ・途中で約分する方が手際の良いことをおさえる。 ・$1/2+3/4-4/5$ の計算の仕方を考える。 ・計算練習をする。 ・2 と $1/3+4/5$ の計算の仕方を考える。 ・通分してから整数部分、分数部分どうしを計算する方法と、仮分数になおして通分して計算する方法があることをおさえる。 ・1 と $3/5+2$ と $1/6$ の計算の仕方を考える。 ・計算練習をする。 ・帯分数の加法計算の仕方を基に、2 と $1/4-2/3$ の計算の仕方を考える。 ・2 と $4/5-1$ と $1/3$ の計算の仕方を考える。 ・分数部分がひけないことがある場合を知る。 ・計算練習をする。 ◆$2/5+0.3$ の計算の仕方を考え、説明する活動。 ・小数を分数になおせばいつでも計算できることを理解する。 ・計算練習をする。
	○分数を用いた時間の表し方を理解する。	1	<ul style="list-style-type: none"> ・45分を時間の単位で表すことを考える。 ・9/12時間、3/4時間が45/60時間と等しいことを通分して確かめる。
	○学習内容の定着を確認し、理解を確実にする。	1	<ul style="list-style-type: none"> ・「しあげのもんだい」に取り組む。
<p>(関)大きさの等しい分数の存在を認め、約分や通分の意味や異分母の分数の加法および減法の計算の仕方を考え、分数の意味の理解を深めようとする。</p> <p>(考)単位の考えに着目して、分母をそろえることの意味を考え、異分母の分数の加法および減法の計算をとらえることができている。</p> <p>(技)約分、通分や異分母の分数の加法および減法の計算をすることができている。</p> <p>(知)分数の性質や約分、通分の意味、異分母の分数の加法および減法の意味やそれらの計算の仕方について理解している。</p>			
11月	単元名	10 単位量あたりの大きさ (14時間)	
	目標	平均の意味を理解し、それを用いることができる。 異種の2量の割合としてとらえられる数量について、比べることの意味や比べ方、表し方を理解し、それを用いることができる。	
	目 標	時	・主な学習活動 ※指導上の工夫 ◆算数的活動

<p>○「平均」の意味と求め方について理解する。</p>	6	<ul style="list-style-type: none"> ・6個のオレンジから絞ったジュースの量から、1個あたりにしぼれる量について考える。 ・ならした量を計算で求める方法を考える。 ・用語「平均」を知り、求め方をまとめる。 ・平均を求める問題の解決を通して、平均の意味や求め方を確かめる。
<p>○値に0がある場合の平均の求め方や、分離量でも平均値は小数で表す場合があることを理解する。</p> <p>○平均から全体量を求める方法を理解する。</p> <p>○算数的活動を通して学習内容の理解を深め、興味を広げる。</p> <p>○学習内容を適用して解決する。</p>		<ul style="list-style-type: none"> ・「算数のおはなし」を読み「平」「均」の漢字の意味を知る。 ・サッカーの1試合当たりの平均得点について考える。 ・平均を求めるときは0を含めて考えることや、分離量であっても平均が小数になる場合があることが分かる。 ・「算数のおはなし」を読み、仮平均について知る。 ・1個のオレンジからとれたジュースの平均の量から、20個ではどれだけの量になるか考える。 ・平均を使って、全体量を予測する。 ※ [やってみよう] 自分の1歩の歩幅を、平均の考えを使って求め、それを使って実際に通学路などの距離や道のりを調べさせてみる。
		<ul style="list-style-type: none"> ・「算数のおはなし」を読み、外れ値について知る。 ・「力をつけよう」に取り組む。
<p>○面積、匹数が異なる場合の混み具合の比べ方を理解し、比べることができる。</p> <p>○「人口密度」の意味とその求め方を理解する。</p> <p>○単位量当たりの大きさを用いて、問題を解決できる。</p> <p>○既習の乗除の場面を単位量当たりの大きさの考えを適用して解決し、単位量当たりの大きさについて理解を深める。</p> <p>○算数的活動を通して学習内容の理解を深め、興味を広げる。</p>	6	<ul style="list-style-type: none"> ・面積とうさぎの数が違う4つの小屋の混み具合の比べ方を考える。 ・AとB、BとCを比べ、どちらかがそろっていると比べられることをおさえる。 ・AとCの比較を通して、匹数か面積のどちらかをそろえればよいことを考える。 ・CとDについても、匹数か面積のどちらかをそろえて比べる。 ・面積をそろえて1㎡当たりの匹数で比べたり、匹数をそろえて1匹当たりの面積で比べたりすればよいことをまとめる。 ・前者の方が分かりやすいことをおさえる。 ・北京市とバンクーバー市の人口の混み具合を比べる。 ・「人口密度」を知り、人口密度を求める。 ・米のとれ具合を、単位量当たりの大きさを用いて調べる。 ・1m当たり7gの針金で工作するとき、52.5gの作品では何mの針金を使ったか考える。 ・ [やってみよう] に取り組む。 ※下の2つの活動から選択する。時間的な余裕があれば、他の活動にも取り組む。 ◆身の回りから、単位量当たりの考えを使っている場面を探す活動 ・各県の人口密度を調べ、白地図に10万人を1つの点で表す。
<p>○学習内容を適用して解決する。</p> <p>○学習内容の定着を確認し、理解を確実にする。</p>	2	<ul style="list-style-type: none"> ・「力をつけるもんだい」に取り組む。 ・「しあげのもんだい」に取り組む。

	(関) 平均で比べることのよさに気付き、生活や学習に生かそうとする。 単位量当たりの大きさを用いると、異種の2量の割合としてとらえられる数量を数値化して表せたり能率的に比べられたりすることのよさに気付き、生活や学習に生かそうとしている。
	(考) 測定の場面などで、平均の意味をとらえ、妥当な数値として平均を用いることができている。 異種の2量の割合としてとらえられる数量について、単位量当たりの大きさで比べることの有用性をとらえ、用いることができている。
	(技) 平均を計算で求めることができている。 異種の2量の割合としてとらえられる数量を単位量当たりの大きさを用い比べることができる。
	(知) 平均の意味や求め方について理解している。 異種の2量の割合としてとらえられる数量を単位量当たりの大きさを用いて比べることの意味や比べ方について理解している。
11	単元名 11 図形の角 (6時間)
月	目標 三角形や四角形の内角の和について、図形の性質として見出し、それを用いて図形を調べたり構成したりすることができるようにする。
12	目 標 時 ・主な学習活動 ※指導上の工夫 ◆算数的活動
月	<p>○三角形の内角の和は 180° であることを理解し、計算で三角形の角の大きさを求めることができる。</p> <p>○四角形の内角の和は 360° であることを理解し、計算で四角形の角の大きさを求めることができる。</p> <p>○「多角形」を知り、多角形の内角の和の求め方を考え、内角の和を求めることができる。</p> <p>○基本図形の敷き詰めを通して、図形に親しみ、その美しさを感じるとともに、論理的な思考力を高める。</p> <p>○学習内容の定着を確認し、理解を確実にする。</p>
	<p>4</p> <p>・敷き詰められた三角形を基に、三角形の3つの角の大きさのきまりを調べる。 ※二種類の三角定規を使い、角の大きさの和を調べさせる。 ・いろいろな三角形について、3つの角の大きさの和が 180° になることを知る。 ・三角形の内角の和が 180° になることを活用して、三角形のいろいろな角度を計算で求める。 ・角度をはからずに、四角形の4つの内角の和を求める方法を考える。 ◆四角形の四つの角の大きさの和が 360° になることを演繹的に考え、説明する活動 ・「五角形」「六角形」「多角形」の意味を理解する。 ・五角形、六角形の内角の和を三角形に分けて調べ、多角形の内角の和について表にまとめる。</p>
	<p>1</p> <p>・折り込みにある一般四角形の同じ図形を並べて、すきまなく敷き詰める。 ・形も大きさも同じ四角形が敷き詰められる理由を考える。 ・平行四辺形の一部を変形していき、おもしろい敷き詰め模様を作る。</p>
	<p>1</p> <p>・「しあげのもんたい」に取り組む。</p>
	(関) 筋道立てて考えることのよさを認め、三角形の内角の和が 180° であること基に、四角形や他の図形の性質を調べようとする。
	(考) 三角形の内角の和が 180° になることを三角形の性質としてとらえ、それを基に、四角形の内角の和について演繹的に考え、四角形の性質としてとらえることができている。
	(技) 三角形や四角形の内角の和を用いて、未知の角度を計算で求めることができている。
	(知) 三角形の内角の和が 180° であることや、四角形の内角の和は三角形に分けることによって求められることを理解している。
12	単元名 12 四角形と三角形の面積 (13時間)
月	目標 平行四辺形、三角形、台形、ひし形などの面積の求め方を理解し、公式をつくり出してそれらの面積を計算で求めることができるようにする。
	目 標 時 ・主な学習活動 ※指導上の工夫 ◆算数的活動

<p>○平行四辺形の面積の求め方を考え、説明することができる。</p> <p>○平行四辺形の面積の公式をつくり出し、それを適用して面積を求めることができる。</p> <p>○高さが平行四辺形の外にある場合でも、平行四辺形の面積の公式を適用できることを理解する。</p> <p>○どんな形の平行四辺形でも、底辺の長さが高さが等しければ、面積は等しくなることを理解する。</p>	3	<ul style="list-style-type: none"> ・求積方法が既習の図形を想起し、平行四辺形の面積の求め方を既習の図形に帰着して考える。 ・長方形に等積変形する平行四辺形の面積の求め方を説明する。 ・平行四辺形の面積を求める公式を考える。 ・公式をつくるには、等積変形した長方形のどこの長さが分かればよいかを考える。 ・平行四辺形の「底辺」「高さ」の意味を知る。 ・平行四辺形の面積を求める公式をまとめ、公式を適用して面積を求める。 ・高さが平行四辺形の外にある場合の面積の求め方を考える。 ・平行な2直線上にある平行四辺形の面積を求め、面積が等しいことをおさえる。 ・公式からも底辺の長さが高さが等しければ面積は等しくなることを確かめる。
<p>○三角形の面積の求め方を考え、説明することができる。</p> <p>○三角形の面積を求める公式をつくり出し、それを適用して面積を求めることができる。</p> <p>○高さが三角形の外にある場合でも、三角形の面積の公式が適用できることを理解する。</p> <p>○どんな形の三角形でも、底辺の長さが高さが等しければ、面積は等しくなることを理解する。</p>	3	<ul style="list-style-type: none"> ・求積方法が既習の図形を想起し、三角形の面積の求め方を既習の図形に帰着して考え、説明する。 ・三角形の面積を求める公式を考える。 ・公式をつくるには、倍積変形した平行四辺形のどこの長さが分かればよいか考える。 ・三角形の面積を求める公式をまとめ、公式を適用して面積を求める。 ・高さが三角形の外にある場合の面積の求め方を考える。 ・平行な2直線上にある三角形の面積を求め、面積が等しいことをおさえる。 ・公式からも底辺の長さが高さが等しければ面積は等しくなることを確かめる。
<p>○台形の面積の求め方を考え、説明することができる。</p> <p>○台形の面積を求める公式をつくり出し、それを適用して面積を求めることができる。</p> <p>○ひし形の面積の求め方を考えることができる。</p> <p>○ひし形の面積を求める公式をつくり出し、それを適用して面積を求めることができる。</p> <p>○算数的活動を通して学習内容の理解を深め、興味を広げる。</p>	4	<ul style="list-style-type: none"> ・既習の面積の求め方を用いて、台形の面積の求め方を考える。 ◆いろいろな求め方を式から読み取り、図で説明する活動 ・台形の面積を求める公式を考える。 ・台形の面積を求める公式をまとめ、公式を適用して面積を求める。 ・既習の面積の求め方を用い、ひし形の面積の求め方を考える。 ・対角線の長さの積がひし形の面積の2倍になっていることを利用して、ひし形の面積を求める公式を考える。 ・ひし形の面積を求める公式をまとめ、公式を適用して面積を求める。 ・〔やってみよう〕葉のおよその面積の求め方を考える。 ※身の回り(靴など)のおよその面積を求めさせる。
<p>○平行四辺形の底辺の長さを一定にして高さを変えたときの、面積と高さは比例の関係にあることを理解する</p>	1	<ul style="list-style-type: none"> ・底辺の長さが5cmの平行四辺形で、高さが1cm、2cm、…、6cmと変化するときの面積の大きさを調べ、面積は高さに比例していることをおさえる。 ・平行四辺形の高さを□cm、面積を○cm²として面積を求める式を考える。
<p>○学習内容を適用して解決する。</p> <p>○学習内容の定着を確認し、理解を確実にする。</p>	2	<ul style="list-style-type: none"> ・「力をつけるもんだい」に取り組む。 ・「しあげのもんだい」に取り組む。

	<p>(関) 平行四辺形、三角形、台形、ひし形などの面積について、既習の面積の求め方に帰着させて考え、計算で求めようとする。</p> <p>(考) 既習の面積の求め方を基に、平行四辺形、三角形、台形、ひし形などの面積の求め方を工夫して考え、公式をつくり出すことができている。</p> <p>(技) 平行四辺形、三角形、台形、ひし形などの面積を公式を用いて求めることができている。</p> <p>(知) 平行四辺形、三角形、台形、ひし形などの計算による面積の求め方を理解している。</p>	
1	単元名	13 百分率とグラフ (12時間)
月	<p>目標 資料における数量の比較や全体や部分の関係の考察などで割合を用いる場合があることや、その表し方についての百分率について理解するとともに、資料を円グラフや帯グラフを用いて表したり、特徴を調べたりすることができるようにする。</p>	
2	目 標	時
月		・主な学習活動 ※指導上の工夫 ◆算数的活動
	<p>○割合の意味を理解し、比較量と基準量から割合を求めることができる。</p> <p>○百分率や歩合の意味とその表し方を理解する。</p>	<p>3</p> <ul style="list-style-type: none"> ・4試合のシュートの記録の比べ方を考える。 ・各試合のシュートの入った割合を求める。 ・割合を求める式をまとめる。 ・1を超える割合について考える。 ・5年生の人数を基にした、サッカークラブに入っている人の割合を求める。 ・「パーセント(%)」「百分率」を知り、割合を百分率で表す。 ・「算数のおはなし」を読んで「歩合」の意味と、「割」「分」「厘」が日常生活のなかで用いられていることを知る。
	<p>○比較量は、基準量×割合で求められることを理解する。</p> <p>○基準量は、比較量÷割合で求められることを理解する。</p> <p>○和や差を含んだ割合の場合について、比較量や基準量を求めることができる。</p> <p>○学習内容を適用して解決する。</p> <p>○日常の事象や資料を数量的に考察する場合に、割合を用いると分かりやすいといったよさや有用性を感得する。</p>	<p>4</p> <ul style="list-style-type: none"> ・果汁20%の300mLのジュースに含まれている、果汁の量の求め方を考える。 ・比較量を求める式をまとめる。 ・割合を求める式と比較量を求める式を比べ、各量の関係を確認する。 ・1週間前に生まれた直後のねこの体重168gが生まれた直後の160%にあたる時、生まれた直後のねこの体重の求め方を考える。 ・基準量を求める式をまとめる。 ・250円のマジックペンを30%引きで買うときの、代金の求め方を考える。 ・900円の筆箱に消費税5%を加えた値段の求め方を考える。 ・「力をつけるもんだい」に取り組む。 ・「算数のおはなし」を読んで、地球上で失われていく森林の割合について調べる。
	<p>○帯グラフや円グラフの読み方や特徴を理解する。</p> <p>○帯グラフや円グラフのかき方を理解する。</p> <p>○グラフから、割合や絶対量を読み取り、問題を解決することができる。</p> <p>○学習内容の定着を確認し、理解を確実にする。</p>	<p>4</p> <p>※社会科資料集などで使い方を見比べてさせる。</p> <p>◆目的に応じて表やグラフを選び、活用する活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地方別の米の収穫量の割合はどのようなグラフに表せばよいかを考える。 ・「帯グラフ」「円グラフ」を知る。 ・地方別の米の収穫量の、帯グラフ、円グラフを読む。 ・各部分の割合を読み取る。 ・また食べたい給食のメニューの割合を百分率で求めて、それを帯グラフと円グラフに表す。 <p>・東小と西小のけが調べの、割合や絶対量を読み取り、問題を解決する。</p>
		<p>1</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「しあげのもんだい」に取り組む。

(関)	割合を用いて比較したり考察したりするよさに気付き、生活や学習に用いようとする。
(考)	倍の見方を基に割合を考え、目的や場面に応じて数量の大きさの間の関係を割合でとらえることができている。
(技)	数量の関係から割合や百分率、基準量、比較量を求めたり、資料の全体と部分などの関係を表す割合を円グラフや帯グラフに表したりすることができている。
(知)	割合や百分率、基準量、比較量の求め方や、円グラフや帯グラフのかき方および歩合の表し方を理解している。

【授業における評価計画例】 第3次 第4時

- 授業の概略 ※それぞれのグラフから何が読み取れるのかを考える。
 ※2つの帯グラフを比べて、何が読み取れるのかを話し合う。

○評価の観点および評価基準

〈数学的な考え〉 割合の多少と絶対量の多少は一致しないことに気付き、その理由を説明している。

●各学校の評価の基準になる児童の姿の例

A 十分満足できると判断されるもの

グラフが表す情報を読み取ったり、読み取ったことを伝えたりすることができる。

B おおむね満足できると判断されるもの

グラフが表す情報を読み取ることができる。

●評価の方法と視点

- ※それぞれのグラフを読み取れているか観察する。 それぞれの学校のケガの割合を読み取っているか。
 ※2つのグラフを比べて、数量の「大きさ」と「割合」を読み取れているか観察する。
 絶対量に気付き、割合をもとにそれぞれの人数を求めることができているか。

2月	単元名	14 正多角形と円周の長さ (10時間)	
	目標	観察や構成を通して、正多角形の意味や性質についての理解をするとともに、円周率の意味や直径、円周、円周率の関係について理解し、それを用いることができるようにする。	
	目 標	時	・主な学習活動 ※指導上の工夫 ◆算数的活動
	○「正多角形」の意味や性質を理解する。	3	<ul style="list-style-type: none"> 紙を3回折り、二等辺三角形の形に切って広げるとどんな形になるかを考える。 正八角形や正五角形、正六角形の辺の長さや角の大きさを比べる。 円を使って正八角形をかく方法を考える。 円の中心の周りを等分する方法で、正五角形や正六角形をかく。 ※正多角形を重ねてかき、模様を作る。 円の周りを半径の長さで区切って正六角形をかく。 6つの合同な正三角形を手がかりに、正六角形がかけるわけを考える。
	○円の中心の周りの角を等分して正多角形をかく方法を理解する。		
	○円の半径を用いて正六角形をかくことができる。		
	○「円周」について知り、円周は直径の3倍以上4倍以下であることを理解する。	5	<ul style="list-style-type: none"> 4台の一輪車の直径と進んだ距離から、直径と円周の関係について考える。 「円周」の意味を知る。 円周の長さは直径のおよそ何倍か調べる。 円の形をしたいろいろなものの円周と直径の長さを調べて表にまとめる。 調べた結果から、円周の長ささと直径の長さのきまりについて考える。 「円周率」の意味を知り、その求め方をまとめる。 「算数のおはなし」を読み、円周率に関する歴史に関心をもつ。 円の直径の長さが変わるにつれて、円周の長さはどのように変わるか調べ、円周の長さは直径の長さに比例していることをおさえる。 直径を□、円周を○として、円周を求める式を書き、表にまとめる。
	○円の形をしたいろいろなものの直径と円周の長さの関係を調べることができる。		
	○円周率の意味や求め方を理解し、円周の長さを求めることができる。		
	○円周の長さは直径の長さに比例していることを理解する。		

	○外的な活動を通して学習内容の理解を深め、興味を広げる。		<ul style="list-style-type: none"> ・ [やってみよう] ※下の2つの活動から選択させる。時間的な余裕があれば、他の活動にも取り組ませる。 ◆大きな円をかき、円周率が3.14になることを調べる活動。 ・ 円の形をしたものの、直径のおよその長さを円周率を3として求める。
	○学習内容を適用して解決する。 ○学習内容の定着を確認し、理解を確実にする。	2	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「力をつけるもんだい」に取り組む。 ・ 「しあげのもんだい」に取り組む。
	<p>(関) 正多角形の美しさに関心をもち、その意味や性質について、構成要素や円との関係に着目してとらえようとする。 円周率に関心をもち、その歴史や数の並びを調べたり、生活や学習に用いたりしようとする。</p> <p>(考) 円と組み合わせることで正多角形の性質や特徴を見出し、それを基にかき方を考えることができている。 円周の長さは直径の長さに比例していることや、円周の長さに対する直径の長さの割合が常に一定であることをとらえ、円周、直径、円周率の関係についてまとめることができている。</p> <p>(技) 円を使って正多角形をかきことができている。 円周率を用いて直径から円周の長さ、円周から直径の長さを求めることができている。</p> <p>(知) 正多角形の意味や性質を理解している。 円周率の意味や直径、円周、円周率の関係およびその用い方を理解している。</p>		
2月	単元名	15 分数のかけ算とわり算 (6時間)	
	目標	分数×整数、分数÷整数の計算の意味や計算の仕方について理解し、それを用いることができるようにする。	
	目 標	時	・ 主な学習活動 ※指導上の工夫 ◆算数的活動
3月	○分数×整数の計算の意味や計算の仕方を理解し、その計算ができる。	4	<ul style="list-style-type: none"> ・ 1dLで2/5m²塗れるペンキがあるとき、2dLで塗れる面積を求める式を考える。 ◆2/5×2の計算の仕方を考え説明する活動。 ・ 分数×整数の計算の仕方をまとめる。 ・ 5/18×3の計算の仕方を考える。 ・ 途中で約分できる場合の計算の仕方をまとめる。 ・ 2dLで4/5m²塗れるペンキがあるとき、1dLで塗れる面積を求める式を考える。 ※面積図などを活用する。 ・ 4/5÷2、4/5÷3の計算の仕方を考える。 ・ 分数÷整数の計算の仕方をまとめる。
	○分数÷整数の計算の意味や計算の仕方を考え、その計算ができる。		
	○分数÷整数の計算の仕方を理解し、その計算ができる。		
	○学習内容を適用して解決する。 ○学習内容の定着を確認し、理解を確実にする。	2	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「力をつけるもんだい」に取り組む。 ・ 「しあげのもんだい」に取り組む。
	<p>(関) 分数×整数、分数÷整数の計算の仕方を、分数の性質や既習の計算と関連づけてとらえ、学習に用いようとする。</p> <p>(考) 分数×整数、分数÷整数の計算の仕方について、分数の性質や既習の計算を基に考え、統合的にまとめることができている。</p> <p>(技) 分数×整数、分数÷整数の計算をすることができている。</p> <p>(知) 分数×整数、分数÷整数の計算の意味やその計算の仕方を理解している。</p>		
3月	単元名	16 角柱と円柱 (5時間)	
	目標	観察や構成を通し、角柱、円柱の意味や性質について理解し、空間についての感覚を豊かにする。	
	目 標	時	・ 主な学習活動 ※指導上の工夫 ◆算数的活動
	○角柱について、底面の位置関係や底面、側面の形、底面、側面、辺の数を調べることを通して、その意味や性質を理解する。	2	<ul style="list-style-type: none"> ・ 上記の立体を角柱と円柱に仲間分けして、角柱の特徴を調べる観点をとらえる。 ・ 構成要素に着目して角柱の特徴を調べる。 ・ 「角柱」「底面」「側面」を知る。 ・ 用語「三角柱」「四角柱」などを知る。 ・ 円柱の底面や側面の形状を調べる。 ・ 「円柱」を知る。 ・ 身の回りの角柱、円柱の形をしたものを探す。
	○円柱について、底面の位置関係や底面、側面の形を調べることを通し、その意味や性質を理解する。		

<p>○角柱の展開図をかいたり読み取ったりすることができる。</p> <p>○円柱の展開図をかいたり読み取ったりすることができる。</p>	2	<p>◆調べたことをもとに、角柱、円柱の見取り図をかく活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・三角柱の見取り図を基に、展開図について考える。 ・三角柱の展開図をかき、実際に組み立てて確かめる。 ・円柱の見取り図を基に、展開図について考える。 ・側面の長方形の横の長さは、底面の円の円周と等しくなることをおさえる。 <p>※方眼紙で円柱の展開図をかき、組み立てて確かめさせる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「算数のおはなし」を読んで、トイレットペーパーのしんの展開図を予想する。
<p>○学習内容の定着を確認し、理解を確実にする。</p>	1	<ul style="list-style-type: none"> ・「しあげのもんだい」に取り組む。
<p>(関) 角柱、円柱に関心をもち、身の回りから角柱、円柱の形をしたものを見付けようとする。</p> <p>(考) 角柱、円柱の性質について構成要素やそれらの位置関係に着目してとらえることができている。</p> <p>(技) 角柱、円柱の展開図をかいて構成することができている。</p> <p>(知) 角柱、円柱の意味や性質を理解している。</p>		